

日付 2023年10月1日

プロジェクト名

カンボジアにおける教育の質向上プロジェクト

1. 学校図書館普及支援
2. 学校保健普及支援
3. 教員養成大学の学生と指導教官に対する奨学金支援

プロジェクトの背景と目的

背景と目的

1. カンボジアの僻地からの教員研修生に奨学金とアンコールワット研修支援を提供
→2,400名を超える卒業生、修了研修生を全国に輩出し、アクセスの悪い僻地で教員として活躍中。
2. 英語プロジェクト (EIF) の実施 →教育・青年・スポーツ省 (MoEYS) がプロジェクトの成果を認め中学・高校用の英語教科書・教材を開発。→現在、カンボジアの国定英語教材として全国で使用されている。
3. 農村部で教鞭をとる同窓生教師 (アルムナイ) とのネットワークを構築し、能力開発のためのワークショップを定期的に開催。農村部の学校現場における教育問題が明らかになった。現在の図書館プロジェクトと学校保健プロジェクトは、その解決策を模索する中で生まれた。さらにこのプロジェクトは、学校経営、伝統芸術教育、読み書き能力開発における教師の能力を向上させるため、同窓生教師を中心とした教育組織の設立を目指している。
4. 同窓会教師の活動から派生した、近隣住民との協力による図書館と保健室の設置プロジェクトは、他の国のモデルとなるもので、現在、教育アクセスが最も脆弱な地区のひとつであるコッココン州の全中学校 (31校) を対象に実施されている。
5. 教員のレベルアップを図るため、教員養成大学での積極的な研究や、現職教員の研修実施に向けた調査を行う。

1.図書館プロジェクト

世界的なテクノロジーの飛躍的な向上により、私たちの日常生活を取り巻く環境は複雑化し、未来を予測することが難しくなる中、自分で考えるという能力はこれまで以上に重要であると考えられている。しかし、カンボジアは、OECDが実施しているPISA-D (2018年) 調査でも明らかのように、基本的な読解レベルに達している生徒が全体の10%にも満たないという、国際的に見ても著しく低い読解力に悩まされている。

この課題はさまざまな要因に起因している：

- 読解力や読み書きのスキルのための内容が不十分
- 読書習慣を育む環境の欠如。
- 読書の利点に関する教師の理解が限られている
- 図書館が十分に機能している学校は少ない

図書館の設置や読書推進に対する国際的な支援にもかかわらず、多くの取り組みが単に本の配布にとどまっており、効果的に運営される図書館を持つ学校が不足している。生徒に読書文化を根付かせるためには、教師が自ら読書の利点を把握し、生徒に読書の習慣を植え付けることが不可欠である。

カンボジアの公立学校では教師の人事異動が限られており、学校の質が管理能力に与える影響を考慮し、対象を絞ったアプローチが採用された。2019年には、14人の校長 (プレアビビアから2人、スタウンレンから4人、コッココンから7人、モンドルキリから1人)

が、学校改善に対する意識の高い卒業生校長から選ばれた。彼らは、読解プログラムを通じて、2020年に3回の対面セッションからなる読み書きのトレーニングを受け、その後、コロナの流行期間中、毎月継続的にオンライントレーニングを受けた。

教師たちに効果的な読書法を教え、アクティブ・ラーニングの手法を用いて読書マインドを育てることに重点が置かれた。読書習慣の意識を高めるため、14の学校は図書室にクメール語の本(生徒用300冊、大人用50冊)を配り、各校の図書室の先生と校長を対象に5日間の図書管理研修を行った。その後、スタウントレン州に4校、コッココン州に4校、プレアヒア州に2校、モンドルキリ州に1校の計11校の中等学校と、コッココン州に3校の小学校が図書館を開設した。図書館システム導入のための研修とともに、3回のフォローアップ研修も実施された。

最初の14校の経験を基に、2年間の包括的な図書館パッケージ研修が開発された。2022年1月からは、新たに13校の中学校を対象に5回の研修が開始された。野心的な目標は、2026年までにコッココン州の32の中学校すべてに図書館を設置することであり、それに伴い司書も養成される。長期的なビジョンは、全国的なモデルとなる学校図書館管理ネットワークを構築し、司書研修をコッココン州の32の中学校すべてに拡大することである。

2.学校保健プロジェクト

国の発展のためには、青少年が健全な精神と健康な肉体を育める環境づくりが不可欠である。今回のコロナの発生も、国民の健康問題に関する情報リテラシーの低さが露呈され、地方では政府がワクチン摂取を呼びかけても国民が反応しない事態が起こった。

カンボジア教育青年スポーツ省は、2014年の教育改革の一環として、学校保健教科を独立したカリキュラムとして実施することを決定した。教科書が作成され、全国の学校に保健授業の開始が通知されたが、現時点では教科書が配布されておらず、教師の研修計画も確定していないため、ほとんどの学校で授業が実施されていない。また、保健室の設置が全校に推奨されているが、政府が定めた保健室運営マニュアルはなく、ほとんどの学校で保健室運営が適切に機能していない。

コッココン州はカンボジア西部、タイとの国境に位置し、カンボジアで最も交通の便が悪い地域のひとつである。2,400人の日本財団OB教師のうち30%がこの州の学校で働いている。また、同窓会教師がいる6つの州のうち、中等教育学校(中学・高校)と小学校の両方に勤務しているのは同窓会教師だけである、このネットワークを活用すれば、中等教育学校の保健室から同じ学区内の小学校への保健教育活動や、地域社会を巻き込んだ学校保健モデルの構築が可能であるとの考えから、コッココン州教育局と協議の上、国道沿い、沿岸部、丘陵部など地域特性の異なる10校のモデル中等教育学校を選定し、以下のような学校保健支援活動を実施した。

1)【紙芝居を使った健康教室】。

東京学芸大学では、教員養成系大学における中学校保健指導教員の養成プログラムを開始しているが、保健教育を受けた教員が実際に学校現場に配置されるようになるには、まだまだ長い年月がかかる。そこでキズナでは、保健教育を受けたことのない現職教員が、保健の基礎知識を自ら学びながら保健授業を実施できるような副教材(紙芝居、カルタ、スゴロク)の開発に着手した。2021年度末から10中学校の保健担当教員・校長を対象に対面・オンライン研修を15回実施したほか、同中学校の3年生を対象にパイロット授業を実施した。

2)【保健室の設置とトレーニング

同10中学校に保健室が設置され、前述の紙芝居研修と並行して、保健室の運営や校内外での健康環境整備に関する研修が12回実施され、保健担当教員が配置された。また、保健室の

整備・運営には、地域住民や医療関係者の協力が不可欠である。各学校に校長、保健担当教員、保健担当生徒、地域ボランティア、最寄りの医療機関職員で構成される学校保健委員会を設置し、各地域から1名のボランティアを招いて研修を実施した。また、東京学芸大学や文部科学省学校保健局と協力し、中学校の先生や生徒が保健室を運営するための「保健室マニュアル」の作成にも取り組んでいる。

今年度は10校の中等学校で研修が終了。来年度は、保健研修を修了した同窓生教師がアシスタントとして参加し、新たに21校の中等学校で3年間の保健研修を開始。コックン州全32校の中等学校に保健室を設置し、保健担当教師を養成することを目標としている。

3.教師教育大学 (TEC) の学生と指導教官によるアクション・リサーチ支援

1)アクション・リサーチ支援

TECは、2年制の研修機関から4年制の大学へと変貌を遂げ、4年間の歴史の中で初めて、全学生が学位論文を提出し、卒業することになった。学位論文の提出は、カンボジアの名門大学である王立プノンペン大学や国立教育研究所 (NIE) でも達成されていない快挙であり、自主的かつ挑戦的な取り組みである。

学生の能力をさらに向上させるため、TECは教育現場の実態を改善しようとするアクション・リサーチを取り入れた論文手法の導入を試みる。

TECへの研修生への奨学金 (生活費) の支給 (2008年~2019年) に引き続き、教育の質向上のための新たな支援として、両教職員養成校の学生研修生500名を対象に、学生研修生のアクションリサーチと115名の教官の論文指導のための研究費を支給した (P-TEC58名、B-TEC57名)。

2) 伝統文化を学ぶ活動の支援

研修生が教師として自国の文化と誇りを後世に伝えるため、最終学年の研修生500人全員を対象に、世界遺産アンコールワットでの課外研修を支援している。

期待される結果

1.図書館プロジェクト

読書習慣を促進する図書館管理システムモデルを構築する

- 2024年度には、2023年に開始した13校の中等学校に対する継続的な研修と同時に、コックン州に新たに6校の中等学校が研修を開始する。これらの学校にはそれぞれ専用の図書館と訓練を受けた司書が配置され、生徒の図書館利用を促進する。2021年のプロジェクト開始以来、合計で31の中等学校と3つの小学校が図書館施設の恩恵を受け、4,634人の生徒の教育ニーズに応えることになる。この協調的な努力は、教育資源を拡大し、香港州の学習文化を育成するというコミットメントを強調するものである。
- 最終的には、カンボジアの小学校から高校までの公立学校の生徒が図書館を利用できるようになり、読書リテラシー (自分で考える力) の向上に貢献する。
- 生徒と教師の双方に読書習慣をつけることで、生徒の学業成績と教師の仕事成績を向上させる。

2. 学校保健プロジェクト

- 保健室は、コックン州の21の中等学校に新設され、42人の保健教師 (保健教師と校長各2人) が3年間の保健研修を経て配置された後、7,476人の中等学校の生徒が保健室を利用できるようになる。つまり、以前のモデル校を含め、香港全土の31の中等学校で8,835人の生徒が保健室を利用できることになる。
- 紙芝居健康教室の研修とパイロット授業を通じて、7~9年生 (中1~中3) の非保健専門教員による健康教室を各学校で実施する。

<ul style="list-style-type: none"> - 研修 2 年目からは、地域の健康意識向上を目的としたプログラムに地域ボランティアが積極的に参加。地域住民や小学校を対象に、紙芝居や遊びの教材を使った健康教育ボランティア活動を行った。また、住民参加の地域清掃、PTA 運動会、成人定期健診など各種健康イベントも実施した。これらの総合的な取り組みは、地域清掃、PTA 運動会、成人健康診断などのイベントを通じて、地域全体の健康意識の向上に貢献している。 <p>3.教師教育大学 (TEC) の学習支援と現職教師のためのアップグレード研修</p> <p>TEC 研修生の学習サポート</p> <ul style="list-style-type: none"> - この奨学金により、卒業後も日本財団と提携を続けるアルムナイ・ファカルティが毎年 500 人輩出される。 - アンコールワット研修を通じて、生徒たちは自国の文化と誇りを学び、次世代に伝えていくことができる。 <p>現職教師のためのアップグレード研修</p> <ul style="list-style-type: none"> - 定期的な同窓会会合を通じて、2,400 人の同窓会教職員が意見交換を行い、きずなや共同教育活動についての新たな知見を得るとともに、地域の教育問題解決に向けた自主的な取り組みを推進している。
--

<p>プロジェクト概要</p>	<p>1. 図書館プロジェクト</p> <p>a.図書館運営と読書に関する研修とワークショップ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コッコン州に新設された 6 つの中等学校で基本的な図書館管理研修を実施し、生徒たちは本の分類や貸し出し、図書館の利用方法を学んだ。 2) 新設 6 校に読書活動に関する研修を行う。 3) 実施後、技術交流ワークショップを開催する。 4) 図書館管理システム (PMB システム) に関する研修を実施し、モデル図書館を訪問した。 5) 前年度に図書館を導入したエキサイティングな学校 (26 校) を対象に、スキル共有とアップグレード研修を実施。図書の追加提供。 6) フェーズ 2 グループ対象に海外研修旅行を実施する。 <p>b.評価とモニタリング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教育・青少年・スポーツ省の EQA 部門と協力し、ベースライン・アセスメントとエンドライン・アセスメントを実施。 2) 新設校とエキサイティング・スクールのモニタリング実施 <p>c. 備品および機器</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校への本と本棚の寄贈 <p>d. 図書室の建設と改修</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教室数が足りていない 3 つの中学校に図書室を建設する。 2) 中学校 9 校の図書室の改修 <p>2. 保健室プロジェクト</p> <p>a.保健室と健康教室のトレーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員 44 名 (学校より各 2 名) に対する保健室の基礎研修 中学校 22 校の学校長および保健担当教諭。中学校 22 校の生徒 44 名を対象に実施 (第 1 回対面授業) 。
-----------------	---

	<p>2) 紙芝居の基礎研修 (第2回対面研修) を実施。 21 の中学校で 42 人の生徒を対象に授業を行った。</p> <p>3) 健康活動研修 (第回対面研修) を実施、招聘 各学校から教員とボランティア教員 1 名が参加する。</p> <p>4) オンライン紙芝居研修 (3 回)</p> <p>5) 情報共有とアップグレード研修 (第4回対面トレーニング) 各学校へのモニタリングの結果共有とアップグレード研修。 モデル学校の保健室見学。</p> <p>b.評価とモニタリング</p> <p>1) 教育青年スポーツ省の教育品質保証局(EQAD)と協力し、ベースライン評価とエンドライン評価の実施。</p> <p>2) 中間モニタリング&フォローアップ実施</p> <p>c. 備品および機器の提供</p> <p>1) 紙芝居を補完する本の制作と配布</p> <p>2) 基本トレーニングを修了した者に保健室設備</p> <p>3) 各学校にオンライントレーニング用の PC を提供する。</p> <p>3.教員養成大学 (TEC) のアクション・リサーチ支援と現職教員のレベルアップ研修</p> <p>1) TEC 研修生へのアクション・リサーチ支援 アンコールワット研修は、2014-2015 年度の両 PTEC の 4 年生 500 名を対象に実施する。(2024 年 11 月・12 月実施)</p> <p>2) 現職教師のためのアップグレード研修</p> <ul style="list-style-type: none"> - 同窓会ネットワークの理事会を開催。 - 将来のイニシアチブのために、同窓生のネットワーク調査を通じて、地方における新たなプロジェクトの可能性を探る。
--	---

活動の普及	<ul style="list-style-type: none"> - 教員養成大学での定期的なイベントを通じて、教育関係者、潜在的支援者、メディアなどにプロジェクトを広報する。 - アルムナイで定期的にワークショップを開催し、このプロジェクトの認知度を高める。 - 各地で開催されるワークショップやイベントを通じて、このプロジェクトの認知度を高める。 - ウェブサイトやパンフレットを通じて、教育関係者、潜在的支援者、メディアなどにプロジェクトを広報する。 	
現場	カンボジアの 26 都市	
プロジェクト予算 (単年度)	741,705 米ドル	プロジェクト実施機関 2024 年 1 月 1 日
日本財団への申請額	741,705 米ドル	終了まで: 2024 年 12 月 31 日

<p>プロジェクトの革新的かつ創造的な側面</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>図書館プロジェクト</u> <ul style="list-style-type: none"> - 機能的な図書館運営を確保するため、訓練を受けた司書が学校に配置されている。 - 国際性の低いカンボジアの生徒のリテラシー能力を向上させる 2. <u>保健室プロジェクト</u> <ul style="list-style-type: none"> - 日本財団奨学生アルムナイ教師と、地域住民や保健セクターと協力し、地域社会のニーズに合った「学校保健室」を運営する。 - 日本の伝統芸能や遊びを活用した健康教材の開発。 3. <u>教師教育大学 (TEC) の学習支援と現職教師のためのアップグレード研修</u> <ul style="list-style-type: none"> - カンボジアで唯一、アクション・リサーチを取り入れた論文指導を行う大学 - TEC の学生は自国の伝統を学び、誇り高い教師になる。 - 日本財団のアルムナイ教師によって、教育の質を向上させるプロジェクトが広められている。
---------------------------	--

<p>プロジェクトから期待される効果と長期的な影響</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>図書館プロジェクト</u> <ul style="list-style-type: none"> - 国民の読書習慣が向上した結果、国民全体の識字能力が向上する。 2. <u>保健室プロジェクト</u> <ul style="list-style-type: none"> - 国民の健康への関心が高まった結果、国力は向上する。 3. <u>教員養成大学 (TEC) の学習支援と現職教員のレベルアップ研修</u> <ul style="list-style-type: none"> - 都市部と農村部、世代間の教育格差は是正されるだろう。
-------------------------------	---

<p>評価方法 / 検証手段</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>図書館プロジェクト</u> <ul style="list-style-type: none"> - 図書館管理の専門家と MoEYS の教育質保証部門は、プロジェクトの効果を検証することを目的として、実施前後に学校の教師と生徒を評価し、客観的な評価を行う。 2. <u>保健室プロジェクト</u> <ul style="list-style-type: none"> - 東京学芸大学と MoEYS の質保証局は、プロジェクトの効果を検証するため、研修の前後に全プロジェクト校の教師と生徒を対象にアンケート調査と客観的評価を実施する。 3. <u>教師教育大学 (TEC) の支援と現職教師のためのアップグレードトレーニング</u> <ul style="list-style-type: none"> - 両 TEC の教員と生徒を対象に、図書館管理の専門家によるモニタリング調査を実施し、プロジェクトの効果を判定する。 - 卒業生のいる学校を訪問し、インタビュー等を通じてプロジェクトの効果を検証する。 - プロジェクトの効果を検証するため、同窓生と地域住民にアンケートを実施する。
--------------------	--

プロジェクト実施期間 6 年のうち 4 年目。

プロジェクト実施期間	2020 年 1 月 1 日 ~ 2026 年 12 月 31 日	
プロジェクト総予算	日本円/米ドル/ユーロ 3,765,929 米ドル	日本財団への助成金申請額 3,765,929 米ドル

実施スケジュール

プロジェクト活動	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	6 年目
プロジェクト期間	2021 年 1 月 1 日 ~2022 4 月 30 日	2022 年 5 月 1 日 ~2022 12 月 31 日	2023 年 1 月 1 日 ~2023 12 月 31 日	2024 年 1 月 1 日 ~2024 年 12 月 31 日	2025 年 1 月 1 日 ~2025 年 12 月 31 日	2026 年 1 月 1 日 ~2026 年 12 月 31 日
年間プロジェクト予算	719,200 米ドル	748,000 米ドル	796,224 米ドル	741,705 米ドル	740,000 米ドル	740,000 米ドル
プロジェクト詳細	識字能力向上のための教材を開発し、教員養成大学に研修を提供する。研修をアップグレードし、同窓生とともにプロジェクトをサポートする。学校保健の教材と研修を開発する。(コックング州の中学校 9 校)	教員養成大学への研修の提供。卒業生によるアップグレードトレーニング、学校保健教材の開発と授業・保健室研修 (コックング州の中学校 9 校) 図書館研修 (ST、PV、KK の 13 校)	教員養成学校に新たな奨学金を提供する、卒業生アップグレードトレーニング、学校保健の授業と保健室研修 (コックング州内の中学校 9+1 校) 図書館研修 (コックング州の中学校 13 校)	教員養成学校への奨学金提供 卒業生アップグレードトレーニング。学校保健 紙芝居教室と保健室研修 (コックング州に 21 の中学校を新設) 図書館研修 (コックング州で 13 校のフォローアップと新規 6 校の立ち上げ)	教員養成学校への奨学金提供 卒業生アップグレードトレーニング。学校保健 紙芝居教室と保健室研修 (コックング州に 21 の中学校を新設) 図書館研修 (コックング州で 6 校のフォローアップと 8 校の新規開校)	教員養成学校への奨学金提供 卒業生アップグレードトレーニング。学校保健 紙芝居教室と保健室研修 (コックング州に 21 の中学校を新設) 図書館研修 (コックング州の 8 校をフォローアップ)
	英語完成 学校 健康中核モデル校の創設	学校保健：中核モデル校の創設。 図書館プロジェクト開始	奨学金制度再開 学校保健と図書館中核モデル校の創設	学校保健、図書館、普及期	学校保健、図書館、普及期	学校保健、図書館、全土への普及完了。政府への移管

プロジェクト予算	米ドル 3,765,929 米ドル	日本財団への助成金申請額	米ドル 3,765,929 米ドル			
現場	カンボジアの 26 都市					